年度別「古典の日文化基金賞」受賞者一覧

令和３年		
文学・思想	角田 光代 （作家）	「池澤夏樹個人編集日本古典文学全集」において、『源氏物語』の現代語訳にあたり、読みやすさとスピード感にあふれた表現に意欲的に取り組み、世代をこえた多くの読者の共感を得て、古典文学の普及と啓発に貢献。
伝統芸能・音楽	沖縄伝統組踊「子の会」	「組踊」の伝承者としての活動を通じて、先達から脈々と受け継がれてきた文化遺産である沖縄の伝統芸能の世界を保存発展させ、次世代へ継承していくことに貢献。「子の会」の名前の由来でもある、琉球王国の士の誇りと、美ら海のような清い志をもって、沖縄の古典芸能の普及発展に尽くす。
美術・生活文化	山本 茜 （截金ガラス作家）	飛鳥時代、仏像を荘厳するため伝来した伝統的な截金の技法を、独創的な発想と手法で発展活用し、新たに、「截金ガラス」の技法を創出。日本を代表する『源氏物語』に啓発され、５４帖をモチーフにした作品完成をライフワークにする。
芳賀徹記念・ 古典の日宣言特別賞	ツベタナ・クリステワ （国際基督教大学名誉教授）	ブルガリアの日本文学研究者として、来日後も、比較文化の視点から精力的に日本古典の研究を進め、『涙の詩学・王朝文化の詩的言語』等、多くの成果を発表。比較文化の研究者仲間として芳賀徹先生と親交を深め、2008年11月1日の「源氏物語千年紀」国際フォーラムでも席を並べ、共に日本文化の国際発信に寄与した。

令和４年		
文学・思想	特定非営利活動法人知里森舎	明治時代に絶滅の危機にあった北海道アイヌ民族伝統文化の発信・保存・継承に取り組む。1997年に設立された「知里森舎」は、19歳の若さで『アイヌ神謡集』を残し夭折した知里幸恵を顕彰し、2010年には民間の寄付金により「知里幸恵 銀のしずく記念館」を開設。
	一般社団法人札幌大学 ウレシパクラブ	学生及びその活動を支援する一般市民で構成され、アイヌ伝統舞踊の公演活動を中心にアイヌ古典の復元などにも取り組む。「ウレシパ」はアイヌ語で「ともに育てあう」という意で、「ウレシパ奨学金制度」も運用している。
伝統芸能・音楽	淡路人形座	昭和39年、戦後存立の危機にあった淡路人形芝居を守るために発足。常設館での興業、国内外での公演、特に学校でのワークショップ開催等の子供たちへの古典啓発活動、後継者団体への指導、全国の人形芝居保存協会への協力など、人形浄瑠璃の普及発展のための活動を続ける。令和3年、淡路出身のアーティスト・清川あさみの新作「戎舞＋」を上演する等、新たな取り組みも進めている。
美術・生活文化	クリストフ・マルケ （日本美術史家・フランス国立極東学院京都支部代表・京都大学人文科学研究所特任教授）	東京大学に留学し、浅井忠はじめ日本近代美術を研究。以降、フランス国立東洋言語文化大学日本学部長、日仏会館フランス事務所長、フランス国立極東学院学院長などを歴任し、日本美術を広くヨーロッパに紹介。近年は、日本でも忘れかけてきた大津絵に着目し、「大津絵－日本の庶民絵画展」等の開催、日仏での紹介図書の出版、全国の博物館・美術館で散逸する大津絵を調査研究し600点の存在を確認する等、幅広く親日家としても活躍。
未来賞	宇治っ子朗読劇団☆Genji	2008年の源氏物語千年紀を契機に、『宇治十帖』の舞台・宇治の小中学生が『源氏物語』を親しみやすく群読する「宇治っ子朗読劇団Genji」を結成し、以降も子供たちに引き継がれて活動を続けている。
	京都府立鳥羽高等学校 披講研究部	冷泉流歌道の作法で詠んだ生徒の和歌を、宮廷衣装を身に着けた高校生たちが古式に則り披講する活動を学内外で展開し、学校全体も古典・伝統文化教育を柱の一つとしている。
	津屋崎臨海学校実行委員会	1993年以来30年、福岡教育大学の学生が中心となって、福岡県津屋崎海岸で小学生の臨海学校を開催し、その体験を通じて子供たちが短歌を詠む活動を、企画運営をはじめすべて手作りで実践。昨年もコロナ禍の中、日程を縮小して実施。

令和５年		
文学・思想	クリス・モズデル （詩人・作詞家）	イギリス出身の詩人・作詞家。坂本龍一、マイケル・ジャクソン、ボーイ・ジョージらのアーティスト、またガンダム、カウボーイビバップなどのアニメのサウンドトラックにも詞を提供。 日本の文化、とりわけ古典と平安京、伝統に培われた生活様式と風土を愛し、千年の時を超えて和泉式部ら平安の歌人の感性を自らのものとし、詩作活動を続ける世界への伝道者。
伝統芸能・音楽	桂吉坊 （落語家）	1999年、桂吉朝に入門。桂米朝の内弟子として修業。 『桂吉坊がきく藝』の出版で、芸能の世界の重鎮に堂々インタビューし、古典芸能の世界の魅力を発信。「吉坊の会」では、受け継いでゆきたい演目に挑戦するとともに、伝統芸能者を舞台に招きナビゲーターとしてわかりやすい解説で、落語以外の伝統芸能の理解を深める役割を果たす。上方落語会のホープとして期待される存在。
美術・生活文化	木桶職人復活プロジェクト	ユネスコ無形文化遺産に登録された和食。そののベースとなる「醤油」「味噌」「酢」「味醂」「酒」などの発酵調味料は、乳酸菌や酵母菌など「微生物たちの力を最大限発揮させる揺りかご」となる木桶で製造される。コスト高のため木桶を製造する桶屋は全国で1軒となる危機に。子孫に木桶と伝統の味を伝承するため、業界の枠を越えて集まり小豆島で立ち上がった「木桶職人復活プロジェクト」。
未来賞	こまつ歌舞伎未来塾	「勧進帳」の舞台である安宅の関を擁する小松市は、能や歌舞伎などの伝統芸能が盛んな地で、市民は祭礼などにおいて伝統芸能に触れ、親しんでいる。未来塾では「こまつ歌舞伎教室」「こまつ能楽教室」「義太夫語りの会」「こまつ邦楽舞踊教室」の各教室においては幅広い年代の生徒たちが日々研鑽を積み、市内外においてその成果を披露している。
	京都府立嵯峨野高等学校 京・平安文化論ラボ	世界を代表する日本古典『源氏物語』にフォーカスし、テーマ設定から実施計画までフィールドワークも含めた研究活動に主体的に取り組む。市民が気軽に参加できる「ちゅう源氏と巡る 源氏物語 京都スタンプラリー」の企画・運営や地元の老舗菓子店の協力を得て、「源氏物語を味覚と視覚で楽しんでもらう」お菓子の製作販売をする等、「地域社会」に溶け込んだ古典文化活動を積極的に続けている。
	宮古市立津軽石中学校 文化祭郷土芸能獅子舞グループ	宮古市津軽石法の脇地区は津波に押し流され、村に150年伝わった郷土芸能獅子舞の頭や衣装、太鼓などが失われた。津軽石中学校の生徒たちは生活の復旧に追われる大人たちを励まし、避難生活を送る法の脇の人たちに教わった獅子舞を秋の文化祭で舞い踊った。生徒たちは「法の脇獅子舞保存会」の主要なメンバーとして、生まれ育った古里の獅子舞を残し、伝えていきたいと稽古に励んでいる。

令和６年		
文学・思想	NHK「100分de名著」制作スタッフ	古今東西の名著をプレゼン上手なゲストによるわかりやすい解説に加え、アニメーション、イメージ映像、朗読などを駆使して、奥深い古典、名著の世界を紹介。放送開始以来、紹介された作品は140を超え、番組制作を支えた制作スタッフ、出演者の努力は敬意に表する。
伝統芸能・音楽	御陣乗太鼓保存会	能登半島地震は、人口175人の名舟町にも甚大な被害を及ぼした。この町に伝わる御陣乗太鼓は、400年の歴史を歩んできた石川県の重要無形文化財であり、町と共にあり、町の人々の魂を支えてきた文化遺産。能登復興の元気な旗印としていち早く活動を再開。
美術・生活文化	漆芸職人集団彦十蒔絵	輪島塗は木地師、研ぎ師や蒔絵師といった多数の職人たちの分業で成り立つ。独自の意匠、メッセージ性を盛り込んだ斬新な作品を開拓。「ウルシの木植樹再生事業」などにも取り組む。壊滅的な打撃を受けた輪島塗の復興のための活動を展開。
未来賞	湯前町立湯前中学校 ［伝統芸能継承活動］	地域の伝統芸能「球磨神楽」「東方組太鼓踊り」「浅鹿野棒踊り」を各保存会から指導を受けて練習し、文化祭や地元の里宮神社の秋季大祭で披露。これらの活動を通じて学びを共有し、主体的に地域の伝統や文化を継承する大切さを学んでいる。
	The American School in Japan 狂言クラブ	1978年発足の「狂言クラブ」は、大蔵流狂言山本東次郎家から日本語で指導を受け、演者、台本の英訳、字幕などを分担して担当。狂言を通して日本の文化を深く理解し、国際社会で活躍する次世代の人間形成を目指す。
	味方梓 （観世流能楽師）	2021年「小鍛冶」で初面をつとめる。父の観世流能役者味方玄が毎年重ねてきた主催公演「テアトル・ノウ」で、初面以来、父娘で一演目ずつ演能。「能を観たことがない若い世代に、能を広めていける能楽師になっていきたい。」と同世代の能楽師と共に研鑽を積む若手ホープ。